



路上整理と維持愛惜の念

理事 三菱家庭總務 桐島 像 一

道路改良會の機關雜誌たる「道路の改良」も、段々健全に發達して、愈々第五卷第一號を發行することとなつた、卷が改まり號を重ねると共に、ますます内容を充實して、所期の目的を達したいと思ふ。

元來道路改良會は、路面の改良は勿論、路幅を擴張し、橋梁を改善し、道路の鋪裝を完全にする等、總て道路を技術的に善くすることを、宣傳すべき目的を以て生れたものであるが、自分は此等の事項の外、

更に道路の使用、方法や、維持方法に就ても、周密に調査考究したならば、必らずや道路利用の上に於て、費少くして効多き好結果を收むることが出来ると思ふ、先づ目標を東京に取つて申さば、夜など街路を歩いて見ると、沿道の各店舗では、各自使用の箱車や、荷車などを道路に抛り出してゐるのや、其他通行の妨害となるものが尠くない、此等を適當に整理して、下水の上まで道路として利用することが出来る様なれば、何等の費用を要せずして、道幅が自然擴張されたことになる、又細い車輪に重い荷物を載せた貨物車などが、縦横に走り廻つては、折角奇麗に舗装した路面も、其天壽を全うすることが出来ぬ様になるから、此等に就ても現在の取締以上、更に好方便を案出するの必要がありはしないか、道は遑きに在り、ちよつとしたことで、道路の使用や、維持の上に案外効果を齎すことがあらうと思ふから、此等に就ても追々御互に考へて見たいと思ふ。

何れにしても道路は所謂天下の公道で、凡そ歩行し得るものは何人でも之を利用するものである、故に道路を技術的に改善するのは勿論必要であるが、國民一般に道路は天下の公道であると同時に我物であると云ふ觀念を充實せしめ、自己の便宜のみを計つて、一般の妨害となるが如きことを慎むは勿論、道路を大切にし、道路に對して愛惜の念を起さしむること等、約めて申さば、道路公德を涵養せしむることは一面、誠に必要の事と信ずる、之より追々本誌に依りて、世道人心を啓發したいと思ふのである。